

令和8年度

第2学年

国語科

年間指導計画・評価計画

担当 [田中俊文・田中 怜]

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3) 言葉がもつ価値を認識すると共に、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	・漢字や文法などの定着を確実なものにするために、小テストおよび学習コンテストを実施する。 ・辞書やタブレットPC等で、語句を調べることを習慣化させ、語彙力を身に付けさせる。 ・授業の予習、復習にあたる課題を提示し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	・「話すこと・聞くこと」では、人との関わりの中で、伝え合う力を身に付けさせる。 ・「書くこと」では、文章を書くことに慣れることで、言葉による見方、考え方を働かせ、自分の考えを適切に表現する力を身に付けさせる。 ・「読むこと」では、様々な文章を読むことで、自分の思いや考えを広げたり、深めたりさせていく。 ・3つの領域の関連を図りながら学習を行う。	・個人で考える場面とグループで話し合う場面など、発問にあった活動を行い主体的な学びにつなげていく。 ・タブレットPCなどICT機器を活用した意見交流の場を設け、一人一人が充実した対話的な学びができる環境を作っていく。	・毎授業、目標を定め、生徒が自らの学習過程を振り返り、課題をもって学習していける評価を行う。 ・各提出物の評価観点を明確にし、細やかなチェックを行う。 ・単元のまとめまでに、学習の途中経過や進度を適宜、確認し、評価を行う。 ・単元のまとめとして、完成した作品や発表等で評価を行う。

◎単元(1～数十時間の学習内容のまとめ)は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	【単元】・『教材』	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	オリエンテーション	1			
	【詩】 『見えないだけ』	1	語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。		言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
	【物語文】 『アイスプラネット』	4	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
	【聞く】 「意見を聞き、整理して検討する」	1	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
	【文法】 『単語をどう分ける?』	2	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。		言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
5	【話す】 「魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする」	5	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くことができる。	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
	【古典】 『枕草子』	2	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
	【書く】 『自分流「枕草子」を書く』	1	現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を学ぶことができる。	目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすることができる。 表現の効果を考えながら描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	

	【説明文】 『クマゼミの増加の原因を探る』	4	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。	文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
6	【情報】 『情報整理のレッスン 思考の視覚化』 【書く】 『情報を整理して伝えよう職業ガイドを作る』	1 5	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。	目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
	【語彙】 『熟語の構成』	1	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。		言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
	【短歌】 『短歌に親しむ』 『短歌を味わう』	1 5	抽象的な概念を表す語句の量を増すと共に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。 短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
	【説明文】 『言葉の力』	2	本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
7	【言葉】 『類義語・対義語・多義語』 『抽象的な概念を表す言葉』	1 2	抽象的な概念を表す語句の量を増すと共に、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。		言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
9	【情報】 『メディアの特徴を生かして情報を集めよう デジタル市民として生きる』	2	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。	目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
	【読書】 『読書を楽しむ』 『翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま』 『わからないは人生の宝物』 『本の世界を広げよう』	1か3	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。	観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
9	【物語文】 『ヒューマノイド』	4	話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。	登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

【随筆】 『字のない葉書』	3	本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。	観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。	言葉がもつ価値を認識する共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【書く】 表現を工夫して書こう 「手紙や電子メールを書く」 【推敲】 表現の効果を考える	3 1	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くことができる。 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【言葉】 「敬語」	1	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。		言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【話す・聞く】 「聞き上手になろう」 質問で思いや考えを引き出す	2	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。	論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
10【言葉】 「同じ訓・同じ音をもつ漢字」	1	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。		言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【説明文】 『モアイは語るー地球の未来』	5	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	文章の構成や論理の展開について考えることができる。 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【言葉】 「根拠の吟味」	1	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。		言葉がもつ価値を認識する共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【書く】 適切な根拠を選んで書こう 「意見文を書く」	5	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【古典】 『聴きわたる月夜の浜辺』	1	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。		言葉がもつ価値を認識する共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【古典】 『平家物語』 音読を楽しむ 『扇の的一平家物語』	1 3	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

11【古典】 『仁和寺にある法師—徒然草』	3	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識する共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
【古典】 『漢詩の風景』	3	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。	観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。	言葉がもつ価値を認識する共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
【説明文】 『君は最後の晩餐を知っているか』	3	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。	観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
【言葉】 『具体と抽象』	1	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。		言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
12【話す・聞く】 「話し合い(進行)」 話し合いの流れを確認しよう	1	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
【文法】 走る。走らない。走ろうよ。 『用言の活用』	1	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。		言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
【話す・聞く】 「立場を尊重して話し合おう」 討論で視野を広げる	4	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
【読書】 『「自分らしさ」を認め合う社会へ』 『父と話せば』『六千回のトライの先に』	1	本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
【物語】 『走れメロス』 【書く】 「作品の魅力をまとめ、語り合おう」	6 2	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
1【文法】 1字違いで大違い	5	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について		言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に

	「付属語」		て理解することができる。		して、思いや考えを伝え合おうとする。
	【書く】 「描写を工夫して書こう」 心の動きが伝わるように物語を書く。	5	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おうとする。
	【言葉】 「話し言葉と書き言葉」	2	話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。		話し言葉と書き言葉の特徴について理解 することができる。
2	【言葉】 「送り仮名」	1	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。		言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おうとする。
	【書く】【話す・聞く】 国語の学びを振り返ろう 「国語を学ぶ意義を考え、コピーを作る」	4	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見い出すことができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おうとする。
	【詩】 『鍵』	2	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おうとする。
3	「国語の力試し」	3	類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解することができる。 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。 観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。	言葉がもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おうとする。

	書写	20	硬筆 1点画の組み立て方・変化・連続について実践を通して確認する。 2筆順について、実践を通して、法則と意味を理解し、整った字形を書く。 毛筆 ・書初め ・楷書・行書の書き方	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。目的や必要に応じて、楷書又は、行書を選んで書くこと。	これまでの学習を生かして、目的に応じて、楷書や行書で文字を書こうとしている。
			小テストや提出課題、定期考査等	小テストや提出課題、定期考査等	小テストや提出課題、定期考査等

※【知識・技能】（１）ア「第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。また、学年別配当表に示されている漢字について文や文章の中で使い慣れること」については、単元ごとに指導を行い、書いたり、読んだりすることで生活に生かすことができるよう指導する。

令和8年度

2学年 社会科 年間指導計画・評価計画

担当 [稲森 幹大]

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。	・知識に結びつく用語等をわかりやすく提示し、覚える内容を基礎・基本となる最小限の内容に抑える。 ・社会科の3技能「情報を収集する、情報を読み取る、情報をまとめる」を単元や各授業で効果的に定着や活用場面を設定する。	・単元を見通した問いを追究させる学習過程を設定し、学んだことを整理し、関連づけ、まとめる等のアウトプットする学習場面をつくる。 ・各授業の振り返りを実施し、1時間の授業で学んだ内容をまとめる等のアウトプットする学習場面を設定する。	・単元を見通した問いに対する各自の予想である「見通し」を設定させ、本時での学びが課題追究となる学習場面を設定する。 ・生徒の疑問や知りたいことをできる限り授業に反映して、授業を構築する。	・クラスルームを活用し、生徒の学習状況を把握し、助言や指導を実施するなど、学習改善につながる評価をできる限りこまめに行う。 ・記録に残す評価については、評価基準を生徒と共有した上で、(全員B基準以上を前提として)生徒自身が目指す目標を設定できるようにする。

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとめり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	歴史4-1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一	タブレット 大型ディスプレイ	7	単元の問い(仮)「ヨーロッパ人との出会いを経て、なぜ戦乱の世が終わりをむかえたのだろうか？」		
				・ヨーロッパ人来航の背景とその影響を基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。 ・ルネサンスや宗教改革、新航路開拓など、14～16世紀に起こった歴史的事象やヨーロッパ人の来航による日本への影響などに関する資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	・14～16世紀に起こった歴史的事象の特色とヨーロッパ人の来航による日本への影響など交易の広がりとその影響などに着目して、事象を関連付けるなどして、多面的・多角的に考察し、相互に結果を表現している。	・ヨーロッパ人の来航による日本の社会への影響について、よりよい社会の実現を視野に見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 ・次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
5	歴史4-2 江戸幕府の成立と対外政策の変化	大型ディスプレイ タブレット	6	単元の問い(仮)「なぜ江戸幕府の支配は約260年も続いたのだろうか？」		
				・織田信長・豊臣秀吉による統一事業、江戸幕府によるその対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べ、まとめ、近世社会の基礎が作られたことを理解している。	・統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化などに着目して、事象を関連付けるなどして、多面的・多角的に考察し、相互に結果を表現している。	・織田・豊臣政権下、江戸幕府の政策などと中世社会の比較をしたりして、よりよい社会の実現を視野に見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 ・次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
6 7	歴史4-3 産業の発達と幕府政治の推移	大型ディスプレイ タブレット	9	単元の問い(仮)「産業や文化が発達し、都市が繁栄する中で、なぜ幕府は改革をせまられたのでしょうか？」		
				・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。	・経済の発達と都市の繁栄、町人文化や各地方の生活文化、政治の行き詰まりと繰り返される政治改革、新しい学問や思想などに着目して、事象を関連付けるなどして、多面的・多角的に考察し、相互に結果を表現している。	・当時の政治や文化の動向などの変化について、よりよい社会の実現を視野に見通し

				・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。 ・経済の発達と都市の繁栄、町人文化や各地方の生活文化、政治の行き詰まりと繰り返される政治改革、新しい学問や思想に関する資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	として、多面的・多角的に考察し、相互に結果を表現している。	をもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 ・次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
7 9	地理3－1 身近な地域の調査 地理 2 身近な地域の構想	タブレット 大型ディスプレイ	6	単元の問い(仮)「学校周辺の地域には、どんな特色があり、それらを調べるにはどんな方法があるのだろうか？」		
				・大泉中学校周辺の地域の実態や課題解決のための取組を理解している。 ・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。	・地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野に見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
9	地理3－7 北海道地方	大型ディスプレイ タブレット	6	単元の問い(例)「北海道地方では冷涼で広大な自然をどのように生かしているのだろうか？」		
				・北海道地方について、自然環境に注目した視点から地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や雨温図、統計資料など、北海道地方の地域的特色に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、活用できている。	・自然環境に関する特色あることがらに注目して、文化や産業との関わりなどと関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。	・北海道地方に関する学習について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。よりよい社会の実現を視野に見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
10	地理3－8 東北地方	大型ディスプレイ タブレット	6	単元の問い(例)「東北地方の伝統的な生活や文化は、社会の変化にともないどのように変わっているのだろうか？」		
				・東北地方の位置や自然環境および歴史、産業の特色を理解するとともに、人々の生活の変化が東北地方の産業にどのように影響しているのかを理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や写真・雨温図などから、東北地方の自然環境の特色や、伝統的な祭りや工芸品の特色を読み取り、活用できている。	・東北地方の産業の発達を写真や地図・グラフなどを活用してとらえるとともに、東日本大震災による人々の生活の変化と、それにともなう東北地方の産業の課題について表現している。	・東北地方に関する学習について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 ・次の学習へのつながりを見出そうとしている。
11	地理 3-9 関東地方	プロジェクト タブレット	6	単元の問い(仮)「関東地方における人口の集中は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか？」		
				・関東地方の地形や気候の特色、首都機能、東京大都市圏の拡大、人口が集中することによって発展した産業の特色、京浜工業地帯、京葉工業地域、北関東工業地域の特色などを基に、関東地方の地域的特色や課題を理解している。	・関東地方において、交通や通信を中核設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・関東地方に関する学習について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 ・次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

12	歴史5-1 近代世界の 確立とアジア	大型ディス プレイ タブレット	8	単元の問い(仮)「欧米とアジアとの関係が変化する中、なぜ江戸幕府は滅んだのだろうか？」		
				・欧米諸国における産業革命や市民革命, アジア諸国の動きなどを基に, 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 ・議会政治の始まりや産業革命によって資本主義社会が成立したこと, それにともなうアジアへの影響および開国するまでの経緯や, 開国後に攘夷運動が高まり江戸幕府が滅亡に至るまでの過程について, 様々な資料を活用し, 読み取ったり図表にまとめたりしている。	・市民革命が起こった背景や産業革命がもたらした影響および欧米諸国のアジアへの進出や開国が, 幕府の政策や社会の変化に与えた影響などに着目して, 事象を関連付けるなどして, 多面的・多角的に考察し, 相互に結果を表現している。	・幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことについて, よりよい社会の実現を視野に見通しをもって学習に取り組もうとし, 学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 ・次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
1	歴史 2-7 開国と幕府 政治の終わり ①明治維新 と立憲国家 への歩み ②近代の産 業と文化の 発展	大型ディス プレイ タブレット	8	単元の問い(仮)「なぜ、明治政府は富国強兵・殖産興業政策といった政治の改革を進めることができたのだろうか？」		
				・開国とその影響, 富国強兵・殖産興業政策, 文明開化の風潮などを基に, 明治維新によって近代国家の基礎が整えられて, 人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ・日本の産業革命, この時期の国民生活の変化, 学問・教育・科学・芸術の発展などを基に, 我が国で近代産業が発展し, 近代文化が形成されたことを理解している。	・富国強兵の諸改革, 殖産興業による近代産業の育成, 文明開化の動き, 立憲国家の成立, 産業の発展に関する様々な資料を活用し, 読み取ったり図表にまとめたりしている。	・新政府による政治の改革のねらいや, 明治維新による人々の生活の変化など, また産業革命が国民生活に与えた影響などに着目して, 事象を関連付けるなどして, 多面的・多角的に考察し, 相互に結果を表現している。
2 3	歴史 2-8 激動する東ア ジアと日清・ 日露戦争	大型ディス プレイ タブレット	8	単元の問い(仮)「なぜ、明治政府は立憲制の国家を目指したのだろうか？」		
				・自由民権運動, 大日本帝国憲法の制定, 日清・日露戦争, 条約改正などを基に, 立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに, 我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。 ・日清・日露戦争における日本の国際的地位が向上したことを, 帝国主義により激動する東アジアの動きと関連させながら, 様々な資料を活用し, 読み取ったり図表にまとめたりしている。	・日清・日露戦争などの対外的な動きが, 国内や国際社会へ与えた影響などに着目して, 事象を関連付けるなどして, 多面的・多角的に考察し, 相互に結果を表現している。	・急速に近代化した我が国へ大きな影響を与えた戦争に対する関心を高め, 条約改正から日本の国際的地位が向上するまでの経緯について, よりよい社会の実現を視野に見通しをもって学習に取り組もうとし, 学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
評価材および評価方法				【学習改善につながる評価】 ○授業観察○机間指導 ○ワークシート記述へのコメント 【記録に残す評価】 ○定期考査○振り返りシート	【学習改善につながる評価】 ○授業観察○机間指導 ○ワークシート記述へのコメント 【記録に残す評価】 ○定期考査○振り返りシート	【学習改善につながる評価】 ○授業観察○机間指導 ○ワークシート記述へのコメント 【記録に残す評価】 ○振り返りシート

令和8年度

2学年 社会科 年間指導計画・評価計画

担当【名取エリカ】

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。	・知識に結びつく用語等をわかりやすく提示し、覚える内容を基礎・基本となる最小限の内容に抑える。 ・社会科の3技能「情報を収集する、情報を読み取る、情報をまとめる」を単元や各授業で効果的に定着や活用場面を設定する。	・単元を見通した問いを追究させる学習過程を設定し、学んだことを整理し、関連づけ、まとめる等のアウトプットする学習場面をつくる。 ・各授業の振り返りをワークシート等を用いて実施し、1時間の授業で学んだ内容をまとめる等のアウトプットする学習場面を設定する。	・単元を見通した問いを生徒自身で設定させ、自分たちの作った課題を追究させる。 ・単元を見通した問いに対する各自の予想である「見通し」を設定させ、本時での学びが課題追究となる学習場面を設定する。 ・生徒の疑問や知りたいことをできる限り授業に反映して、授業を構築する。	・クラスルームを活用し、生徒の学習状況を把握し、助言や指導を実施するなど、学習改善につながる評価をできる限りこまめに行う。 ・記録に残す評価については、評価基準を生徒と共有した上で、(全員B基準以上を前提として)生徒自身が目指す目標を設定できるようにする。

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとめり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	地理 3-1 九州地方	プロジェクト — タブレット	6	単元の問い(仮)「九州地方の自然環境と人々の生活にはどのような関わりがあるだろうか。」		
				・九州地方の自然環境を中核とした考察をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・九州地方の自然環境を表す諸資料から地域的特色を示す有用な情報を読み取り、活用できている。	・九州地方の自然環境へ向けた取り組みをもとに、持続可能な社会へ向けて、様々な立場から考察し、表現している。	・九州地方に関する学習について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
6 7	地理 3-2 中国・四国地方	プロジェクト — タブレット	6	単元の問い(仮)「本州四国連絡橋は地域にどのような影響を与えたのだろうか。」		
				・中国・四国地方の特色を自然環境、産業、結び付きなどの事象から関連つけて理解している。 ・主題図(人口分布・密度)雨温図、統計(人口動態・構成)景観写真等から、地域の特色を適切に読み取っている。	・人口や都市・村落を中核として、そこに生きる人々の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・中国・四国地方に関する学習について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
9 10	地理 3-3 近畿地方	プロジェクト — タブレット	6	単元の問い(仮)「近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。」		
				・近畿地方の地形や気候の特色、産業、京都や奈良の歴史的景観を守るさまざまな取り組みなどを基に、近畿地方の地域的特色や課題を理解している。 ・産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象やそこで生ずる課題を理解している。	・近畿地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・近畿地方に関する学習について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

				・地図や雨温図から近畿地方の地形や気候の特色を適切に読み取る。 ・主題図や統計資料、景観写真等の各種資料を用いて、焦点化された事例である環境保全や阪神工業地帯及び林業や漁業の現状や課題、歴史的景観を守るための工夫や努力を適切に読み取っている。		
11 12	地理 3-4 中部地方	プロジェクト ー タブレット	5	単元の問い(例)「東海地方・北陸地方・中央高地の産業の発展にはどのような要因があるだろうか。」		
				・中部地方の産業を中核とした考察をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・中部地方の産業の実態を表す諸資料から地域的特色を示す有用な情報を読み取り、活用できている。	・中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察をもとに、多面的・多角的に考察し、表現している。	・中部地方に関する学習について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
1 2 3	地理 2 日本の地域 的特色	プロジェクト ー タブレット	12	単元の問い(仮)「現在の日本の自然環境や人口、産業には、どのような特色があるだろうか。」		
				・日本の自然環境や人口、産業の特色について、諸資料の読み取りをもとに理解し、その知識を身に付けている。 ・様々な地域区分を使い、地域的特色を示す方法を身に付けることができる。	・目的に応じた適切な地域区分を判断し、設定するために様々な面から考察し、表現している。	・現在の日本の自然環境や人口、産業にはどのような特色があるかという学習について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
評価材および評価方法				【学習改善につながる評価】 ○授業観察○机間指導 ○ワークシート記述へのコメント 【記録に残す評価】 ○定期考査○振り返りシート	【学習改善につながる評価】 ○授業観察○机間指導 ○ワークシート記述へのコメント 【記録に残す評価】 ○定期考査○振り返りシート	【学習改善につながる評価】 ○授業観察○机間指導 ○ワークシート記述へのコメント 【記録に残す評価】 ○振り返りシート

1 章 文字式を使って説明しよう [式の計算] (15 時間)

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 式の計算	マジックシートのしくみは？（教科書 p. 11～13）	1	マジックシートの仕組みを見いだし、その仕組みの説明に文字を使う必要があることを理解する。	・マジックシートをいろいろな数で計算し、その仕組みを見いだす。 ・文字を使ってマジックシートの仕組みを説明する。	○文字を使うと、数量を一般的に表すことができることを理解している。	○マジックシートの仕組みが成り立つことを、具体的な数や文字を使って説明することができる。	○文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。
	1 多項式の計算 （教科書 p. 14～18）	2	単項式と多項式、次数の意味を理解する。	・文字式を項の数やかけられている文字の個数で分類する。 ・単項式と多項式、次数の意味を知る。 [用語・記号] 単項式、多項式、項、(単項式の)次数、(多項式の)次数、1 次式	○単項式と多項式、次数の意味を理解している。		○既習の計算方法と関連づけて、多項式の計算方法を考えようとしている。
		3	同類項の意味を理解し、同類項をまとめる計算や、多項式の加法や減法の計算ができる。	・1 年で学習した同類項をまとめる計算を振り返って、2 つの文字をふくむ計算について考える。 ・同類項の意味を知る。 ・同類項をまとめる計算や多項式の加法や減法の計算をする。 [用語・記号] 同類項	○同類項の意味を理解し、同類項をまとめる計算ができる。 ○多項式の加法や減法の計算方法を理解し、計算ができる。	○既習の計算方法と関連づけて、2 つの文字をふくむ同類項をまとめる計算を考え、説明することができる。 ○マジックシートの仕組みが成り立つことを、文字を使って説明することができる。	
		4	多項式と数の乗法や除法の計算ができる。	・1 年で学習した多項式と数の乗法の計算を振り返って、2 つの文字をふくむ計算について考える。 ・多項式と数の乗法や除法の計算をする。	○多項式と数の乗法や除法の計算方法を理解し、計算ができる。	○既習の計算方法と関連づけて、2 つの文字をふくむ多項式と数の乗法や除法の計算を考え、説明することができる。	
		5	いろいろな多項式の計算ができる。	・いろいろな多項式の計算をする。	○いろいろな多項式の計算ができる。		
	2 単項式の乗法と除法 （教科書 p. 19～21）	6	単項式どうしの乗法や除法の計算ができる。	・単項式の乗法や除法の計算方法を、面積図を使って考える。 ・単項式どうしの乗法や除法の計算をする。	○単項式どうしの乗法や除法の計算方法を理解し、計算ができる。	○単項式の乗法や除法の計算方法を、面積図を用いて考え、説明することができる。 ○誤りのありのある単項式どうしの除法について、誤りを指摘することができる。	○単項式の乗法や除法の意味を考えようとしている。
		7	単項式どうしの乗法と除法の混じった計算ができる。また、式の値をくふうして求めることができる。	・単項式どうしの乗法と除法の混じった式を計算する。 ・式の値をくふうして求める方法を考え、その方法で式の値を求める。	○単項式どうしの乗法と除法の混じった計算ができる。 ○式の値をくふうして求めることができる。	○式の値をくふうして求める方法を考え、説明することができる。 ○誤りのある単項式どうしの乗法と除法の混じった計算について、誤りを指摘することができる。	○式の値をくふうして求める方法を考えようとしている。

	基本の問題 (教科書 p. 22)	8						
2 文字式の利用	数の性質を説明するには？ (教科書 p. 23)	9	具体的な数の計算をもとに数の性質を見だし、その性質が成り立つことを、文字を使って一般的に説明できることを理解する。	・3 つの続いた整数の和の性質を、具体的な数の計算をもとに予想し、その予想がいつでも成り立つことを説明するには文字を使えばよいことを知る。	○文字を使うと、数の性質を一般的に説明することができることを理解している。		○文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○文字を使った式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	
	1 式による説明 (教科書 p. 24～26)		10	数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。	・3 つの続いた整数の和は3 の倍数であることを、文字を使って説明する。 ・3 つの続いた整数の和が3 の倍数であることの説明を読んで、新たな性質を見いだしたり、問題の条件の「3 つ」を「5 つ」に変えて考えたりする。	○文字を使って数量を表したり、説明することがらに合わせて文字式を変形したりすることができる。		○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。 ○文字を使った説明を読んで新たな性質を見いだしたり、問題の条件を変えて統合的・発展的に考え説明したりすることができる。
			11	数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。	・2 けたの自然数と、その数の一の位と十の位を入れかえた数との和の性質を予想し、その予想がいつでも成り立つことを、文字を使って説明する。 ・問題の条件の「和」を「差」に変えて考える	○文字を使って数量を表したり、説明することがらに合わせて文字式を変形したりすることができる。		○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。 ○問題の条件を変えて統合的・発展的に考え、説明することができる。
	スタート地点を決めよう (教科書 p. 27～28)	12	身のまわりの場面において、文字を使って数量の関係を見だし、説明することができる。	・となり合うレーンの1 周の長さの差を求め、どのとなり合うレーンでも、1 周の長さの差は等しいことを見いだす。	○文字を使って数量の関係を表すことができる。	○身のまわりの場面において、文字を使って数量の関係を見だし、説明することができる。	○身のまわりの場面において、文字を使って数量の関係を見いだそうとしている。	
	2 等式の変形 (教科書 p. 29～31)	13	目的に応じて等式を変形することの必要性を理解し、等式を変形して、ある文字について解くことができる。	・具体的な問題の中の数量の間の関係を等式で表し、その等式を成り立たせる文字の値を求める。 ・等式を変形して、ある文字について解く。	○目的に応じて等式を変形することの必要性を理解している。 ○等式を変形して、ある文字について解くことができる。	○等式の性質を利用して、変形した式の意味を考えたり、具体的な問題を解決したりすることができる。	○目的に応じて等式を変形することの必要性を考えようとしている。	
		14						
	基本の問題 (教科書 p. 31)							
章の問題A (教科書 p. 32)	15							
評価基準				定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	提出物（ワーク、レポート、振り返りシート等）の取組状況		

2 章 方程式を利用して問題を解決しよう [連立方程式]（12 時間）

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 連 立 方 程 式 と そ の 解 き 方	3 点シュートと 2 点シュートの本数は？ (教科書 p. 35～37)	1	求めたい数量が 2 つある問題を、既習の 1 元 1 次方程式などを活用して解決することができる。	・ 3 点シュートと 2 点シュートの本数を、すべての組み合わせを調べたり、1 次方程式をつくったりして求める。		○求めたい数量が2つある問題を、既習の 1 元 1 次方程式などを活用して解決することができる。	○1 元 1 次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、2 元 1 次方程式の必要性和意味を考えようとしている。
	1 連立方程式とその解 (教科書 p. 38～39)	2	2 元 1 次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を理解する。	・ 2 元 1 次方程式とその解の意味を知る。 ・ 連立方程式とその解の意味を知る。 [用語・記号] 2 元 1 次方程式、(2 元 1 次方程式の) 解、連立方程式、(連立方程式の) 解、(連立方程式を) 解く	○2 元 1 次方程式とその解の意味を理解している。 ○連立方程式とその解の意味を理解している。		○連立 2 元 1 次方程式の必要性和意味を考えようとしている。
	2 連立方程式の解き方 (教科書 p. 40～45)	3	連立方程式では、1 つの文字を消去して 1 次方程式をつくれれば解けることを理解する。	・ 具体的な問題で、2 つの式を比べて 1 つの文字を消去する方法を考える。 ・ 文字の係数の絶対値が等しい場合の連立方程式を解く。 [用語・記号] 消去する	○連立方程式では、1 つの文字を消去して 1 次方程式をつくれれば解けることを理解している。 ○文字の係数の絶対値が等しい場合の連立方程式を解くことができる。	○文字の係数の絶対値が等しい場合の連立方程式で、1 つの文字を消去する方法を考え、説明することができる。	○1 元 1 次方程式と関連づけて、連立方程式を解く方法を考えようとしている。
		4	加減法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。	・ 文字の係数の絶対値が等しくない場合の連立方程式を解く。 [用語・記号] 加減法	○加減法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。	○文字の係数の絶対値が等しくない場合の連立方程式で、1 つの文字を消去する方法を考え、説明することができる。	
		5	代入法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。	・ 求めたい数量が 2 つある問題で、連立方程式と 1 次方程式を関連づけて、文字を消去する方法を考える。 ・ 連立方程式を代入法で解く。 ・ 連立方程式を適当な方法で解く。 [用語・記号] 代入法	○代入法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。 ○問題の連立方程式に応じて適切な解法を選ぶことができる。	○一方の式を他方の式に代入し、文字を消去する方法を考え、説明することができる。 ○連立方程式の解き方を振り返って、加減法と代入法を統合的に捉えることができる。	
	3 いろいろな連立方程式 (教科書 p. 46～47)	6	かっこをふくむ連立方程式や、係数に小数や分数をふくむ連立方程式を解くことができる。	・ かっこをふくむ連立方程式を解く。 ・ 係数に小数や分数をふくむ連立方程式を解く。	○かっこをふくむ連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。 ○係数に小数や分数をふくむ連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。	○いろいろな連立方程式を、既知の連立方程式になおして解く方法を考え、説明することができる。	○いろいろな連立方程式を、既知の連立方程式になおして解く方法を考えようとしている。
		7	$A=B=C$ の形をした連立方程式を解くことができる。	・ $A=B=C$ の形をした連立方程式を解く。	○ $A=B=C$ の形をした連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。		

	基本の問題 (教科書 p. 48)						
2 連立 方程式 の 利用	プリンとケーキを何個 買う？ (教科書 p. 49～50)	8	具体的な問題を、連立方程 式を利用して解決するとき の考え方や手順を理解す る。	・プリンとケーキの個数を、連立方程式を 利用して求めることについて考える。 ・連立方程式を利用して問題を解決する ときの手順を確認する。	○具体的な問題の中の数量やその 関係に着目し、連立方程式をつ くることができる。 ○連立 2 元 1 次方程式を利用して 問題を解決するときの手順を理 解している。	○連立 2 元 1 次方程式を利用して、 具体的な問題を解決することが できる。 ○求めた解が問題に適しているか どうかを、問題の場面に戻って 考え、説明することができる。	○連立 2 元 1 方程式を具体的な問 題の解決に利用しようとしてい る。 ○連立 2 元 1 方程式を活用した問 題解決の過程を振り返って、そ の手順を検討しようとしてい る。
	1 連立方程式の利用 (教科書 p. 51～53)	9	個数と代金に関する問題 を、連立方程式を利用して 解決することができる。	・個数と代金に関する問題を、連立方程式 を利用して解決する。			
		10	速さ・時間・道のりに関する 問題を、連立方程式を利用 して解決することができる。	・速さ・時間・道のりに関する問題を、連 立方程式を利用して解決する。			
		11	割合に関する問題を、連立 方程式を利用して解決する ことができる。	・割合に関する問題を、連立方程式を利用 して解決する。			
	章の問題 A (教科書 p. 54)		12				
評価基準				定期考査、単元テスト、小テスト、 授業課題、問題集	定期考査、単元テスト、小テスト、 授業課題、問題集	提出物（ワーク、レポート、 振り返りシート等）の取組状況	

3 章 関数を利用して問題を解決しよう [1 次関数]（19 時間）

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 1 次関数	80℃になるまでの時間は？ (教科書 p. 57～59)	1	具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を調べ、一定の割合で変化していることを見いだす。	・水が 80℃になるまでの時間を調べるために、水の温度の上がり方を、表やグラフを用いて調べる。		○具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係について、表やグラフを用いて調べ、一定の割合で変化していることを見いだし、説明することができる。	○1 次関数の必要性和意味を考えようとしている。
	1 1 次関数 (教科書 p. 60～61)	2	1 次関数の意味を理解し、 $y=ax+b$ の式に表すことができる。	・1 次関数の意味を知る。 ・ y を x の式で表して、 y は x の 1 次関数であるかどうかを調べる。 ・比例や反比例は、1 次関数であるといえるかどうかを考える。 [用語・記号] y は x の 1 次関数である	○1 次関数の意味を理解し、 $y=ax+b$ の式に表すことができる。 ○比例 $y=ax$ は、1 次関数 $y=ax+b$ で $b=0$ の特別な場合であることを理解している。	○ y を x の式で表して、 y は x の 1 次関数であるかどうかを考察し、説明することができる。	
2 1 次関数の性質と調べ方	1 次関数の性質を調べてみよう (教科書 p. 62)	3	1 次関数 $y=ax+b$ では、変化の割合は一定で、 a に等しいことを理解する。	・1 次関数の値の変化を調べ、比例との共通点やちがいについて話し合う。 ・1 次関数の変化の割合について調べる。 ・具体的な事象において、1 次関数の変化の割合が何を意味しているかを読みとる。 ・反比例の変化の割合について調べる。 [用語・記号] 変化の割合	○1 次関数 $y=ax+b$ では、変化の割合は一定で、 a に等しいことを理解している。 ○1 次関数 $y=ax+b$ で、 x の増加量から y の増加量を求めることができる。 ○具体的な事象において、1 次関数の変化の割合が何を意味しているかを読みとることができる。	○1 次関数の値の変化の特徴を見いだし、説明することができる。	○1 次関数の値の変化の特徴を捉えようとしている。
	1 1 次関数の値の変化 (教科書 p. 63～64)						
	2 1 次関数のグラフ (教科書 p. 65～70)	4	1 次関数のグラフは、その式をみたす点の集合で、1 つの直線であることを理解する。また、1 次関数のグラフの切片の意味を理解する。	・1 次関数のグラフがどのようなになるかを、点を細かくとって調べる。 ・1 次関数 $y=ax+b$ のグラフと比例 $y=ax$ のグラフの関係について調べる。 [用語・記号] 切片	○1 次関数のグラフは、その式をみたす点の集合で、1 つの直線であることを理解している。 ○1 次関数のグラフの切片の意味を理解している。	○1 次関数のグラフの特徴を見いだし、説明することができる。	○比例のグラフと対比させて、1 次関数のグラフの特徴を捉えようとしている。 ○1 次関数の式とグラフを関連づけて、1 次関数の特徴を捉えようとしている。
		5	1 次関数のグラフの傾きの意味を理解する。	・1 次関数の変化の割合は、グラフではどのようなことを表しているかを調べる。 ・1 次関数について、グラフの傾きと切片をいう。 ・1 次関数の増減とグラフの特徴についてまとめる。 [用語・記号] 傾き	○1 次関数のグラフの傾きの意味を理解している。 ○1 次関数の値の増減とグラフの特徴を理解している。	○グラフの傾きと切片から、そのグラフが表す式を考察することができる。	

		6	1 次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかくことができる。また、1 次関数について、グラフをもとに x の変域に対応する y の変域を求めることができる。	・1 次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかく。 ・1 次関数の表、式、グラフの関係についてまとめる。 ・1 次関数について、グラフを使って x の変域に対応する y の変域を求める。	○1 次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかくことができる。 ○1 次関数について、グラフをもとに x の変域に対応する y の変域を求めることができる。	○1 次関数の表、式、グラフを、相互に関連づけて考え、説明することができる。	
3	1 次関数の式を求める方法 (教科書 p. 71～73)	7	グラフの傾きと切片を読みとって、1 次関数の式を求めることができる。	・グラフの傾きと切片を読みとって、1 次関数の式を求める。	○グラフの傾きと切片を読みとって、1 次関数を求めることができる。		○1 次関数の式を求める条件や求める方法を考えようとしている。
		8	グラフの傾きと通る 1 点から、1 次関数の式を求めることができる。	・グラフの傾きとグラフが通る 1 点の座標から、1 次関数の式を求める。	○グラフの傾きと通る 1 点の座標から、1 次関数の式を求めることができる。		
		9	グラフが通る 2 点から、1 次関数の式を求めることができる。	・グラフが通る 2 点の座標から、1 次関数の式を求める。	○グラフが通る 2 点の座標から、1 次関数の式を求めることができる。		
	基本の問題 (教科書 p. 74)	10					
3 2 元 1 次方程式と 1 次関数	連立方程式の解はどうなるかな？ (教科書 p. 75)	11	2 元 1 次方程式のグラフは、その解を座標とする点の集合で、式を変形してできる 1 次関数のグラフになっていることを理解する。	・連立方程式の解について調べるために、2 元 1 次方程式の解を座標とする点をとって、どのようなグラフになるかを調べる。 ・2 元 1 次方程式のグラフは、式を変形してできる 1 次関数のグラフになっていることを知る。 ・2 元 1 次方程式のグラフを、式を変形して 1 次関数の傾きと切片を求めてかく。 [用語・記号] 方程式のグラフ	○2 元 1 次方程式のグラフは、その解を座標とする点の集合で、式を変形してできる 1 次関数のグラフになっていることを理解している。		○2 元 1 次方程式や連立方程式の解の意味を、グラフを用いて捉えようとしている。
	1 2 元 1 次方程式のグラフ (教科書 p. 76～79)		12	2 元 1 次方程式のグラフをかくことができる。また、2 元 1 次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。	・2 元 1 次方程式のグラフを、グラフが通る 2 点の座標を求めてかく。 ・2 元 1 次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフをかいて、その特徴を調べる。	○2 元 1 次方程式のグラフをかくことができる。 ○2 元 1 次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。	

	2 連立方程式とグラフ (教科書 p. 80～81)	13	連立方程式の解が、2 つの 2 元 1 次方程式のグラフの交点の座標であることを理解し、連立方程式の解をグラフをかいて求めたり、2 直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりすることができる。	・連立方程式の解が、2 つの 2 元 1 次方程式のグラフの交点の座標であることを確かめる。 ・連立方程式の解をグラフをかいて求めたり、2 直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりする。	○連立方程式の解が、2 つの 2 元 1 次方程式のグラフの交点の座標であることを理解し、連立方程式の解をグラフをかいて求めたり、2 直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりすることができる。	○連立方程式の解の意味を、2 つの 2 元 1 次方程式のグラフを用いて捉え、説明することができる。	
	基本の問題 (教科書 p. 82)	14					
4 1 次関数の利用	飲み物はいつまで冷たく保てる？ (教科書 p. 83～84)	15	具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして、問題を解決する方法を説明することができる。	・飲み物がいつまで冷たく保てるかを、測定した時間と温度をもとにして予想し、その方法を説明する。	○身のまわりには、2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして問題を解決できる場面があることを理解している。	○具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして、問題を解決する方法を説明することができる。	○1 次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○1 次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	1 1 次関数とみなすこと (教科書 p. 85)	16	具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして、問題を解決することができる。	・具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして、問題を解決する。		○具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして、問題を解決する方法を説明することができる。	
	2 1 次関数のグラフの利用 (教科書 p. 86～87)	17	具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。	・具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決する。	○1 次関数のグラフを利用して問題を解決できることや、グラフのよさを理解している。	○具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を 1 次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。	
	3 1 次関数と図形 (教科書 p. 88)	18	図形の辺上を動く点によってできる図形の面積の変化を、1 次関数の式やグラフで表すことができる。	・図形の辺上を動く点によってできる図形について、面積の変化を調べる。	○1 次関数の関係を、変域ごとに式やグラフで表すことができる。	○具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を、変域によって場合分けをして考え、説明することができる。	
章の問題 A (教科書 p. 92)		19					
評価基準				定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	提出物（ワーク、レポート、振り返りシート等）の取組状況	

4 章 図形の性質の調べ方を考えよう [平行と合同] (15 時間)

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 説明のしくみ	角の性質の説明では何をもとにしているかな？ (教科書 p. 95～97)	1	多角形の内角の和の求め方を説明することができる。	・算数で学習した三角形の角の和が 180°であることをもとにして、四角形、五角形、…などの多角形の角の和の求め方を説明する。		○多角形の内角の和の求め方を説明することができる。	○多角形の角についての性質の説明で、もとにしていることがらを考えようとしている。
	1 多角形の角の和の説明 (教科書 p. 98～100)	2	n 角形の内角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。	・ n 角形の内角の和の求め方を、多角形をどのように三角形に分けるか、また、いくつの三角形に分かれるかをもとにして説明する。 [用語・記号] 外角、内角	○多角形の内角、外角の意味を理解している。 ○多角形の内角の和の性質は、三角形の内角の和をもとに見いだせることを理解している。	○ n 角形の内角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。	
		3	n 角形の外角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。	・ n 角形の外角の和の求め方を、 n 角形の内角の和をもとにして説明する。	○多角形の外角の和の性質は、多角形の内角の和をもとに見いだせることを理解している。	○ n 角形の外角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。	
2 平行線と角	説明でもとにしていることがらを調べてみよう (教科書 p. 101)	4	対頂角の意味を理解し、対頂角は等しいことを、論理的に筋道を立てて説明することができる。	・算数で学習した三角形の内角の和が 180° であることの説明を振り返り、何を根拠にしているかを考える。 ・対頂角の意味を知る。 ・対頂角は等しいことを、論理的に筋道を立てて説明する。 ・同位角、錯角の意味を知る。 [用語・記号] 対頂角、同位角、錯角	○対頂角の意味と性質を理解している。	○角について、成り立つことがらを見いだし、説明することができる。 ○対頂角が等しいことを、論理的に筋道を立てて説明することができる。	○証明の必要性和意味を考えようとしている。
	1 平行線と角 (教科書 p. 102～106)						
		6	三角形の内角の和が 180°であることを、論理的に筋道を立てて説明することができる。	・三角形の内角の和が 180° であることを、平行線の性質をもとにして説明する。 ・証明の意味を知る。 ・三角形の外角は、となり合わない 2 つの内角の和に等しいことを見いだす。 ・三角形の内角、外角の性質や多角形の内角の和、外角の和の性質を利用して、角の大きさを求める。 [用語・記号] 証明	○証明の意味を理解している。 ○三角形の内角、外角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 ○多角形の内角の和、外角の和の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。	○三角形の内角の和が 180° であることを、論理的に筋道を立てて説明することができる。	

	角の大きさを求める方法を考えてみよう (教科書 p. 107～109)	7	角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。	・平行線と折れ線の角の大きさの求め方を考え、図にかき加えた線や、根拠となる図形の性質を明らかにして説明する。		○角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。	○平面図形の性質について学んだことを学習に生かそうとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 110)	8					
3 合同な図形	図形の合同を調べるには？ (教科書 p. 111)	9	平面図形の合同の意味と合同な図形の性質を理解する。	・三角形が合同になる条件を考える。 ・平面図形の合同の意味と表し方を知る。 ・合同な図形の性質を確認する。 [用語・記号] 合同、≡	○平面図形の合同の意味と表し方を理解している。 ○合同な図形の性質を理解している。		○三角形が合同になる条件を考えようとしている。 ○平面図形の合同の意味を考えようとしている。
	1 合同な図形の性質と表し方 (教科書 p. 112)						
	2 三角形の合同条件 (教科書 p. 113～115)	10	三角形の合同条件を理解する。	・ある三角形と合同な三角形をかくためには、何がわかればよいかを考える。 ・三角形の合同条件を確認する。	○三角形の合同条件を理解している。	○三角形の合同条件を、三角形の決定条件をもとにして考え、説明することができる。	○三角形の合同条件を、三角形の決定条件をもとにして考えようとしている。
		11	2 つの三角形が合同かどうかを、三角形の合同条件を使って判断することができる。	・2 つの三角形が合同かどうかを、三角形の合同条件を使って判断する。	○三角形の合同条件を利用して、2 つの三角形が合同かどうかを判断することができる。		○三角形の合同条件を学習に生かそうとしている。
	3 証明のすすめ方 (教科書 p. 116～121)	12	ことがらの仮定と結論の意味を理解する。	・角の二等分線の作図の方法が正しいことを、三角形の合同条件を利用して証明することについて考える。 ・ことがらの仮定と結論の意味を知る。 [用語・記号] 仮定、結論	○ことがらの仮定と結論の意味を理解している。		○証明の必要性と意味及びその方法を考えようとしている。
		13	根拠となることがらを明らかにして、簡単な図形の性質を証明することができる。	・根拠となることがらを明らかにして、簡単な図形の性質を証明する。 ・証明の書き方を確認する。 ・証明のためにかいた図と、仮定が同じで異なる図をかいた場合、その証明がどうかを考える。	○証明の進め方を理解している。 ○証明のためにかいた図は、すべての代表として示されていることを理解している。		
	基本の問題 (教科書 p. 121)	14					
章の問題 A (教科書 p. 122)		15					
評価基準				定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	提出物（ワーク、レポート、振り返りシート等）の取組状況	

5 章 図形の性質を見つけて証明しよう [三角形と四角形] (21 時間)

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 三 角 形	直角ができるのはなぜ？ (教科書 p. 125～127)	1	あたえられた手順で、いつでも直角ができる理由を考え、説明することができる。	・あたえられた手順でひもを操作し、直角ができることを確認する。 ・ひもの操作を図に表し、2 つの三角形に着目して、いつでも直角ができるわけを考える。 ・二等辺三角形の定義を確認する。 [用語・記号] 定義	○二等辺三角形の定義を理解している。	○あたえられた手順で、いつでも直角ができる理由を考え、説明することができる。	○平面図形の性質について学んだことを生活に生かそうとしている。
	1 二等辺三角形の性質 (教科書 p. 128～132)	2	二等辺三角形の底角の性質を証明することができる。	・二等辺三角形の 2 つの角は等しいことを証明する。 ・二等辺三角形の底角の性質を利用して、角の大きさを求める。 [用語・記号] 頂角、底辺、底角、定理	○二等辺三角形の頂角、底辺、底角の意味を理解している。 ○二等辺三角形の底角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。	○二等辺三角形の底角の性質を証明することができる。	○二等辺三角形の性質を証明する方法を考えようとしている。
		3	二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を見いだすことができる。また、正三角形の性質を証明することができる。	・二等辺三角形の底角の性質の証明を読んで、頂角の二等分線の性質を見だし、証明する。 ・正三角形の定義を確認する。 ・正三角形の 3 つの角は等しいことを証明する。	○二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を理解している。 ○正三角形の定義と性質を理解している。	○二等辺三角形の底角の性質の証明を読んで頂角の二等分線の性質を見だし、証明することができる。 ○正三角形の性質を証明することができる。	
	2 二等辺三角形になるための条件 (教科書 p. 133～135)	4	二等辺三角形になるための条件を論理的に確かめることができる。また、二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	・紙テープを折って重なる部分の三角形はどんな三角形かを調べる。 ・2 つの角が等しい三角形の 2 辺は等しいことを証明する。 ・二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明する。	○二等辺三角形になるための条件を理解している。 ○二等辺三角形になるための条件の証明において、辺や角の関係などを読みとることができる。	○2 つの角が等しい三角形の 2 辺は等しいことの証明について考察することができる。 ○二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	○二等辺三角形になるための条件を証明する方法を考えようとしている。
		5	ことがらの逆と反例の意味を理解する。	・二等辺三角形の底角の性質と二等辺三角形になるための条件を比べる。 ・ことがらの逆と反例の意味を知る。 [用語・記号] 逆、反例	○ことがらの逆と反例の意味を理解している。		
	3 直角三角形の合同 (教科書 p. 136～138)	6	直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考え、説明することができる。	・2 つの直角三角形はどんなときに合同であるかを考え、説明する。 ・2 つの直角三角形が合同かどうかを、直角三角形の合同条件を使って判断する。 [用語・記号] 斜辺	○直角三角形の合同条件を理解している。	○直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考え、説明することができる。	○直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考えようとしている。
		7	直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	・直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明する。 ・証明を振り返って、さらにわかることを考え、説明する。	○直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	○証明を振り返って、新たな性質を見いだすことができる。	○直角三角形の合同条件を学習に生かそうとしている。

	基本の問題 (教科書 p. 138)	8					
2 平行四 辺形	テープを重ねてできる 図形は？ (教科書 p. 139)	9	平行四辺形の定義と性質を 理解する。	・2つのテープが重なる部分の四角形は、 どんな四角形になるかを調べる。 ・平行四辺形の定義と性質を確認する。 [用語・記号] 対辺、対角、 $\square$ ABCD	○平行四辺形の定義と性質を理解 している。		○平行四辺形の性質を証明する方 法を考えようとしている。
	1 平行四辺形の性質 (教科書 p. 140～142)		10	平行四辺形の性質を証明す ることができる。	・平行四辺形の性質を証明する。		
		11	平行四辺形の性質を利用し て、図形の性質を証明する ことができる。	・平行四辺形の性質を利用して、図形の性 質を証明する。 ・証明のための図をかいて、どんな図でも 証明できていることを確認する。	○証明のためにかいた図は、すべ ての代表として示されているこ とを理解している。	○平行四辺形の性質を利用して、 図形の性質を証明することがで きる。	○平行四辺形の性質を学習に生か そうとしている。
	2 平行四辺形になる ための条件 (教科書 p. 143～147)	12	具体的な事象を考察するこ とを通して、平行四辺形に なるための条件 ② を証明 することができる。	・ロボットが動くようすから、その仕組み について考察する。 ・2組の対辺がそれぞれ等しい四角形は、 平行四辺形であることを証明する。		○具体的な事象を考察することを 通して、平行四辺形になるため の条件 ② を証明することがで きる。	○平行四辺形になるための条件を 証明する方法を考えようとして いる。
		13	平行四辺形の性質の逆を証 明することを通して、平行 四辺形になるための条件 ③、④ を見いだすことが できる。	・2組の対角がそれぞれ等しい四角形は、 平行四辺形であることを証明する。 ・対角線がそれぞれの中点で交わる四角形 は、平行四辺形であることを証明する。	○平行四辺形になるための条件の 証明において、辺や角の関係な どを読みとることができる。	○平行四辺形の性質の逆を証明す ることを通して、平行四辺形に なるための条件 ③、④ を見い だすことができる。	
		14	平行四辺形になるための条 件 ⑤ を証明することがで きる。	・あたえられた手順でノートに図をかく と、どんな四角形になるかを考える。 ・1組の対辺が平行でその長さが等しい四 角形は、平行四辺形であることを証明す る。 ・平行四辺形になるための条件を確認す る。	○平行四辺形になるための条件を 理解している。	○平行四辺形になるための条件 ⑤ を証明することができる。	
		15	平行四辺形になるための条 件を利用して図形の性質を 証明したり、その証明を振 り返って統合的・発展的に 考えたりすることができる。	・平行四辺形になるための条件を利用し て、図形の性質を証明する。 ・平行四辺形になるための条件を利用した 証明を振り返って、統合的・発展的に考 える。		○平行四辺形になるための条件を 利用して図形の性質を証明した り、その証明を振り返って統合 的・発展的に考えたりすること ができる。	

	3 特別な平行四辺形 (教科書 p. 148～150)	16	長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解する。	・2つのテープの重なる部分が長方形やひし形、正方形になるのはどんなときかを考える。 ・長方形、ひし形、正方形の定義をもとにして、それらが平行四辺形であることを証明する。	○長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解している。	○長方形、ひし形、正方形の定義をもとにして、それらが平行四辺形であることを証明することができる。	○長方形、ひし形、正方形と平行四辺形との相互関係を捉えようとしている。
		17	長方形やひし形の対角線の性質を証明することができる。また、その性質の逆が正しくないことを、反例をあげて示すことができる。	・長方形やひし形の対角線の性質を証明する。 ・長方形の対角線の性質をもとにして、直角三角形の斜辺の中点の性質を証明する。 ・長方形やひし形の対角線の性質について、その逆が正しいかどうかを調べる。	○長方形やひし形の対角線の性質を理解している。	○長方形やひし形の対角線の性質を証明することができる。 ○長方形やひし形の対角線の性質の逆が正しくないことを、反例をあげて証明することができる。	
	2つの正三角形の性質は？ (教科書 p. 151～152)	18	既習の内容を活用して、図形の性質を見いだし証明したり、問題の条件を変えて統合的・発展的に考えたりすることができる。	・1点を共有する2つの正三角形の頂点について成り立つ性質を予想し、その性質を証明する。 ・一方の正三角形を回転させても、同じ性質が成り立つことを証明する。		○既習を活用して、図形の性質を見いだし証明したり、統合的・発展的に考えたりすることができる。	○平面図形の性質や図形の合同について学んだことを学習に生かそうとしている。 ○平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	4 平行線と面積 (教科書 p. 153～154)	19	平行線の性質を利用して、図形を等積変形することができる。	・台形に対角線をひいた図の中にある面積の等しい三角形を見つける。 ・底辺を共有し、その辺に平行な直線上に頂点をもつ三角形の面積は等しい理由を考える。 ・多角形を、面積を変えずに変形する方法を考える。	○底辺が同じで高さが等しい三角形の面積は等しいことを理解している。 ○平行線の性質を利用して、図形を等積変形することができる。	○平行線の性質を利用して、図形を等積変形する方法を考え、その方法や手順を説明することができる。	○平行線の性質を学習に生かそうとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 155)	20					
章の問題 A (教科書 p. 158)	21						
評価基準				定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	提出物（ワーク、レポート、振り返りシート等）の取組状況	

6 章 起こりやすさをとらえて説明しよう [確率] (9 時間)

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 確率	くじを先にひく？あとにひく？ (教科書 p. 161～163)	1	多数回の実験の結果をもとにして、あたりやすさの傾向を読みとり、説明することができる。	・3 枚のうち 1 枚があたりであるくじをひくとき、何番目にひくとあたりやすいかを予想し、多数回の実験によって確かめる。		○多数回の実験の結果をもとにして、あたりやすさの傾向を読みとり、説明することができる。	○場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。
	1 同様に確からしいこと (教科書 p. 164～168)	2	多数回の試行によって得られる確率と関連づけて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味及び確率の求め方を理解する。	・1 つのさいころを投げるとき、1 の目が出る確率を、実験によらずに求める方法を考える。 ・どの場合が起こることも同様に確からしいときは、場合の数をもとにして確率を求めることができることを知る。 ・確率 p の値の範囲が、 $0 \leq p \leq 1$ であることを確認する。 [用語・記号] 同様に確からしい	○多数回の試行によって得られる確率と関連づけて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味及び確率の求め方を理解している。 ○確率 p の値の範囲が、 $0 \leq p \leq 1$ であることを理解している。	○実験によらずに確率を求める方法を、場合の数に着目して考え、説明することができる。 ○確率の意味をもとにして、誤りがあることがらを指摘することができる。	
		3	起こりうる場合を、樹形図や表を使って全部あげ、確率を求めることができる。	・2 枚の硬貨を投げるとき、表と裏の出方を 3 通りとして求めた確率と、実験結果が異なった理由を考える。 ・起こりうる場合を、樹形図や表を使って全部あげ、確率を求める。 [用語・記号] 樹形図	○起こりうる場合を、樹形図や表を使って全部あげ、確率を求めることができる。	○同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考え、説明することができる。 ○確率をもとにして、ことがらの起こりやすさを比較し、説明することができる。	○同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考えようとしている。
	2 いろいろな確率 (教科書 p. 169～171)	4	起こりうる場合の組み合わせを考えて、確率を求めることができる。また、起こりうる場合を 2 次元の表に整理し、確率を求めることができる。	・起こりうる場合の組み合わせを考えて、確率を求める。 ・起こりうる場合を 2 次元の表に整理し、確率を求める。	○起こりうる場合の組み合わせを考えて、確率を求めることができる。 ○起こりうる場合を 2 次元の表に整理し、確率を求めることができる。		
		5	あることがらの起こらない確率の求め方を理解し、その確率を求めることができる。	・あることがらの起こらない確率の求め方を考える。 ・あることがらの起こらない確率を求める。	○あることがらの起こらない確率の求め方を理解している。	○あることがらの起こらない確率を、場合の数について成り立つ関係に着目して考え、説明することができる。 ○あることがらの起こらない確率に着目して、確率を求めることができる。	
	基本の問題 (教科書 p. 172)	6					

2 確率による説明	出やすい組み合わせは？ (教科書 p. 173～174)	7	身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。	・2枚のスクラッチカードを削るとき、どの組み合わせが出やすいかを、確率をもとにして考え、説明する。		○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。 ○同様に確からしいことに着目し、起こりうる場合の数え方の誤りを指摘することができる。	○不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	1 確率による説明 (教科書 p. 175)	8	身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。	・くじびきの順番とあたりやすさの関係を、確率をもとにして考え、説明する。		○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。	
章の問題A (教科書 p. 176)		9					
評価基準				定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	提出物（ワーク、レポート、振り返りシート等）の取組状況	

7章 データを比較して判断しよう【データの比較】（5 時間）

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 四分位範囲と箱ひげ図	牛乳の販売数の傾向は？ (教科書 p. 179～181)	1	複数のデータの分布の傾向を比較するとき、ヒストグラムでは比較しにくいことを知る。	・牛乳の1日ごとの販売数の傾向を、データを用いて調べる方法について話し合う。		○2つのヒストグラムから、データの分布の傾向を比較して読みとり、説明することができる。	○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。
	1 四分位数と箱ひげ図 (教科書 p. 182～187)	2	箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し、データを整理して箱ひげ図に表すことができる。また、箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解する。	・牛乳の販売数のデータを整理し、箱ひげ図に表す方法を知る。 ・四分位範囲の意味を知る。 [用語・記号] 箱ひげ図、四分位数、第1四分位数、第2四分位数、第3四分位数、四分位範囲	○箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し、データを整理して箱ひげ図に表すことができる。 ○箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解している。 ○箱ひげ図からデータの分布の傾向を読みとる方法を理解している。 ○箱ひげ図とヒストグラムの対応を理解している。	○箱ひげ図からヒストグラムのおおよその形を考察し、説明することができる。	○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。
		3		・牛乳の販売数のデータを整理し、箱ひげ図に表す。 ・ヒストグラムと箱ひげ図を対応させて、箱ひげ図からデータの分布の傾向や特徴を読みとる方法を考える。 ・箱ひげ図とヒストグラムの対応について知る。			
		4	四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読みとり、批判的に考察し判断することができる。	・箱ひげ図を用いて、牛乳の販売数の傾向を調べる。 ・牛乳の販売数の傾向を読みとり、批判的に考察し判断する。	○箱ひげ図と四分位範囲の必要性を理解している。	○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。	○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
章の問題A (教科書 p. 190)		5					
評価基準				定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	定期考査、単元テスト、小テスト、授業課題、問題集	提出物（ワーク、レポート、振り返りシート等）の取組状況	

令和8年度

2学年 理科 年間指導計画・評価計画

担当〔赤木健太・吉川由梨亜〕

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	教科書の太字や重要語句の整理を行い、反復することによって知識の定着を図る。 観察や実験を行うことによって技能の定着を目指す。 ・毎回の授業に見通しをもたせることで、学習内容を整理しやすく、特に重要な事項を意識しやすくする。 ・自分のつまずきに気づき補強することで基礎学力の定着を図る。 ・長期休業中に、基礎・基本のより一層の定着を図るために、課題等を準備する。	・毎回の授業を通して、法則や原理、現象の原因や理由（なぜそのようなことが起こるか）を突き詰めていくなかで思考・判断力を身につける。 ・グループ学習や学級内において科学の原理や法則を説明することで表現力を培う。 ・実験観察やグループ討議等の学び合いを通して、思考の幅を広げる。 ・レポート等に取り組む中で、表現力が高まるよう課題設定を行う。	・観察や実験の活動を行い、興味・関心をもたせるとともに、学習意欲の向上に努める。 ・科学と日常や科学とスポーツ、科学の未来など、科学を様々なものと関連づけることによって、学習意欲の向上に結びつける。 ・生徒用タブレットやデジタル教科書等の ICT 機器を積極的に活用し、生徒が興味を抱くようなトピックに触れる機会を増やすことで学習意欲の向上を目指す。	・定期考査だけでなく各単元の進度に応じた確認テスト（小テスト）を実施することによって、個々の生徒が学習を振り返る場面を設ける。 ・生徒が自らの学習過程を振り返り、課題をもって学習していける評価を行う。 ・生徒用タブレットなどの ICT 機器も活用しながら、課題のやり取りを行う。

平行型 A

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ～ 7	新しい科学(東京書籍) 単元1 化学変化と原子・分子 第1章 物質のなり立ち 第2章 物質どうしの化学変化 第3章 酸素がかかわる化学変化	生徒用タブレットを用いた課題提示など ワークシート学習時の問題や解答、スライド、動画などの大型ディスプレイでの提示 デジタル教科書の使用	36	・化学変化を原子や分子のモデルと関連づけるながら、物質の分解、原子・分子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 ・化学変化を原子や分子のモデルと関連づけるながら、化学変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 ・化学変化を原子や分子のモデルと関連づけるながら、化学変化における酸化と還元についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・物質のなり立ちについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 ・化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 ・化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・物質のなり立ちに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ・化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ・化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

	第4章 化学変化と物質の質量			・化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化と質量の保存、質量変化の規則性についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・化学変化と物質の質量について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・化学変化と物質の質量に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	第5章 化学変化とその利用			・化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化と熱についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・化学変化に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
7 ～ 12	単元3 天気とその変化 第1章 気象の観測	生徒用タブレットを用いた課題提示など	32	・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測、霧や雲の発生などについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・気象観測について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・気象観測に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	第2章 雲のでき方と前線	ワークシート学習時の問題や解答、スライド、動画などの大型ディスプレイでの提示		・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生、前線の通過と天気の変化などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・天気の変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・天気の変化に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	第3章 大気の動きと日本の天気	デジタル教科書の使用		・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響、自然のめぐみと気象災害についての基本的な原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	日本の気象、自然のめぐみと気象災害について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、日本の気象についての規則性や関係性、天気の変化や日本の気象との関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・日本の気象、自然のめぐみと気象災害に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
12 ～ 3	単元4 電気の世界 第1章 静電気と電流	生徒用タブレットを用いた課題提示など	34	・静電気と電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、静電気と電流の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・静電気と電流について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、静電気と電流の性質や規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・静電気と電流に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	第2章 電流の性質	ワークシート学習時の問題や解答、スライド、動画などの大型ディスプレイでの提示		・電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流のはたらきを理解して、電流と電圧の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・電流に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

	第3章 電流と磁界	デジタル教科書の使用	・電流と磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、磁界と磁力線との関係、電流の磁気作用に関する基本的な概念を観察、実験を通して理解しているとともに、科学的に探究するために必要な基礎操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・電流と磁力線との関係、電流の磁気作用について見通しをもって観察、実験などを行い、実験結果を分析して解釈し、電流と磁界の関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究している。	・電流と磁界に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価材および評価方法			・定期テスト ・実験観察等への取り組み（レポートを含む）	・定期テスト ・実験観察等への取り組み（レポートを含む）	・授業への取り組み（提出物を含む）

平行型 B

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとめ）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ～ 3	新しい科学(東京書籍) 単元2 生物のからだのつくりとはたらき 第1章 生物と細胞 第2章 植物のからだのつくりとはたらき 第3章 動物のからだのつくりとはたらき 第4章 刺激と反応	生徒用タブレットを用いた課題提示など ワークシート学習時の問題や解答、スライド、動画などの大型ディスプレイでの提示 デジタル教科書の使用	38	・生物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物と細胞についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 ・植物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、葉・茎・根のつくりとはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 ・動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、動物が生命を維持するはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 ・動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、刺激と反応についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・生物と細胞について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 ・植物のからだのつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 ・動物が生命を維持するはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 ・刺激と反応について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・生物と細胞に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ・植物のからだのつくりとはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ・動物が生命を維持するはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 ・刺激と反応に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価材および評価方法				・定期テスト ・実験観察等への取り組み（レポートを含む）	・定期テスト ・実験観察等への取り組み（レポートを含む）	・授業への取り組み（提出物を含む）

令和8年度

2 学年 音楽科 年間指導計画・評価計画

担当〔佐藤真由子〕

教 科 の 目 標	指 導 ・ 評 価 の 重 点 お よ び 工 夫 点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。	個人で考える時間を確保し、音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号について、曲想と音楽の構造と関わらせて理解させ、知識・技能の定着を図る。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	グループワークや ICT 機器を活用した授業を積極的に行っていくことで、生徒が自ら学ぶ内容に対し、主体的・協働的に取り組もうとしている。	スモールステップでの学習を中心とし、基礎的な知識・技能の定着を図る。また、技能試験・定期考査を実施し、振り返りの機会を与える。

◎単元（１～数十時間の学習内容のまとめ）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	・「交響曲第 5 番ハ短調」	・オーディオ機器の再生	3	曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	音色、リズム、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
5月	・フーガ短調	・オーディオ機器の再生	2	曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す物質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽の良さや美しさを味わって聴いている。	作品の特徴とその背景にある人物や歴史および奏でられている音色に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている
	・夏の思い出	・端末の機能（学習内容の復習や評価・フィードバック）	3	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
6月 7月	・合唱コンクールに向けて ・課題曲練習	・端末の機能（学習内容の復習や評価・フィードバック）	5	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

9月 10月	・合唱コンクールに向けて ・課題曲、自由曲練習	・端末の機能 (学習内容の復 習や評価・フィ ードバック)	6	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりにつ いて理解している。 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声な どを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に 付け、歌唱で表している。	音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚 し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ ながら、知覚したことと感受したこととの関わりにつ いて考え、どのように歌うかについて思いや意図を もっている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心 をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働 的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
	・サンタルチア	・端末の機能 (学習内容の復 習や評価・フィ ードバック)	2	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景 との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発 声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身 に付け、歌唱で表している。	音色、リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それら の働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知 覚したことと感受したこととの関わりについて考 え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表 すかについて思いや意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景 との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみ ながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取 組もうとしている。
11月	・歌舞伎「勸進帳」 ・長唄「勸進帳」から	・オーディオ機器 の再生	3	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他 の芸術との関わりについて理解している。 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じ た発声との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な 発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を 身に付け、歌唱で表している。	音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働 きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚 したことと感受したこととの関わりについて考 え、曲や演奏に対する評価とその根拠につ いて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴 いている。 音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働 きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知 覚したことと感受したこととの関わりにつ いて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてど のように表すかについて思いや意図をも っている。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他 の芸術との関わりに関心をもち、音楽活動 を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学 習活動に取り組もうとしている。 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に 応じた発声との関わりに関心をもち、音 楽活動を楽しみながら主体的・協働的に 歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
12月	・「アイダ」から	・オーディオ機器 の再生	2	曲想と音楽の構造との関わりについて理解 している。	【思】音色、旋律、テクスチャを知覚し、それら の働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知 覚したことと感受したこととの関わりにつ いて考え、曲や演奏に対する評価とその根 拠について考え、音楽のよさや美しさを 味わって聴いている。	曲想と音楽の構造との関わりに関心をも ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協 働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとし ている。
1月	・アルトリコーダー	・端末の機能 (学習内容の復 習や評価・フィ ードバック)	4	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景 との関わりについて理解している。	音色、リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それら の働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知 覚したことと感受したこととの関わりにつ いて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてど のように表すかについて思いや意図をも っている。	作品の特徴とその背景となる文化や歴史 および楽器の奏でる音色に関心をもち、 音楽活動を楽しみながら主体的・協働 的に歌唱の学習活動に取り組もうとし ている。
2月	創作	・端末の機能 (学習内容の復 習や評価・フィ ードバック)	3	音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、 対照などの構成上の特徴について、表 したいイメージと関わらせて理解して いる。 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつ くるために必要な、課題や条件に沿 った音の選択や組合せなどの技能を 身に付け、創作で表している。	リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それら の働きが生み出す特質や雰囲気を感じ ながら、知覚したことと感受したこと との関わりについて考え、まとまり のある創作表現としてどのように表 すかについて思いや意図をも っている。	音素材の特徴及び音の重なり方や反 復、変化、対照などの構成上の特 徴に関心をもち、音楽活動を楽し みながら主体的・協働的に創作 の学習活動に取り組もうとして いる。
3月	・世界の諸民族の音楽	・オーディオ機器 の再生	2	諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から 生まれる音楽の多様性について理解 している。	音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それら の働きが生み出す特質や雰囲気を感じ ながら、知覚したことと感受したこと との関わりについて考え、と ともに、音楽表現の共通性や固有 性について考え、音楽のよさや美 しさを味わって聴いている。	諸外国の様々な音楽の特徴と、その 特徴から生まれる音楽の多様性 に関心をもち、音楽活動を楽し みながら主体的・協働的に鑑賞 の学習活動に取り組もうとして いる。
評価材および評価方法				実技試験、定期考査、ワークシートへの取り組み状況	実技試験、定期考査、ワークシートへの取り組み状況	実技試験、定期考査の記述内容、授業及びワークシート への取り組み状況、

令和8年度

2学年 美術科 年間指導計画・評価計画（第1版）

担当 [勝又友子]

教 科 の 目 標	指 導 ・ 評 価 の 重 点 お よ び 工 夫 点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。	- ICT 機器や板書、ワークシート、参考作品等を活用し、様々な作品やアーティスト、表現方法に触れる機会を設定し、より広い美術的知識を定着させる。 - 定期的に生徒同士の作品鑑賞の時間を設け、互いの良さや工夫に気付く授業を行う。	- 基礎課題から発展課題のように関連した教材の設定。 - 題材ごとに発想構想から制作、発表鑑賞の工程を踏まえて計画的に授業を行う。 - ICT 機器や参考作品を活用し、生徒の思考を広げる活動を行う。	- ICT 機器を積極的に活用し、美術作品をより身近に感じるものとして体感的に楽しむことができる授業を行う。 - 定期的に生徒同士の作品鑑賞の時間を設け、主体的、協働的に学ぶ環境を作る。	- 個々の生徒の学習状況・能力に応じた目標の設定及び評価の工夫を行っていく。 - ワークシートや授業振り返りシートを活用し、生徒の学習状況の評価を適切に行う。

◎単元(1～数十時間の学習内容のまとめ)は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ～ 7	「プッシュ窓飾用 スタンドグラス」 平面 色彩 デザイン	大型モニター 実物投影機	15	○形や色彩などの性質及び、それらが感情にもたらす効果や構成の美しさなどを基に、分かりやすさと美しさを全体のイメージでとらえることを理解している。 ○視覚的な効果を考え、色を選択し、創意工夫することができる。 ○色の選択を工夫することができる。 ○形や色、の表わし方を身に付け、表したいイメージをもちながら意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現している。	○カッター使い方、色の選択を工夫し、丁寧に効果的な表現をすることができる。 ○色彩効果の工夫をし、平面構成をしている。 ○形や色彩の特徴や美しさを基に、創造的な構成を工夫することができる。	○美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に構図や表現法などを意図に応じて創意工夫したり、創造的に表現したりする活動に取り組もうとしている。
8 ～ 11	「ハイ・コントラスト表現によるイラストレーション」 平面 デザイン	大型モニター 実物投影機	10	○モチーフ(選んだ人物)の形をよく観察し、特徴を的確に捉えることができる。 ○表したいイメージをもちながら意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫することができる。	○主題を基にイメージを膨らませ、黒と白という限られた色づかいの中で形の効果を生かして、創造的に工夫し、表現する構想を練ることができる。	○美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に構図や表現法などを意図に応じて創意工夫し、創造的に表現したりする表現の活動に取り組もうとしている。
夏休	「合唱コンクール 自由曲イメージ画」 平面 色彩 デザイン			○視覚的な効果を考え、丁寧に、創意工夫して表現している。 ○伝えるという目的、形や色彩などの美しさや良さを考え、創意工夫することができる。	○テーマ(自由曲)に沿った発想から伝えたい内容について 分かりやすさや美しさを考え、効果的な構想を練ることができる。 ○色彩効果の工夫をし、平面構成をしている。	○ポスターデザインについて関心をもち、主体的に主題を生み出し、材料や用具の生かし方を工夫している。

12 ～ 3	「暮らしの中の木の工芸品」～丸盆～ 立体表現 彫刻	大型モニター 実物投影機	10	○木の質感や特性、形や色が感情をもたらす効果やぬくもりなどを全体のイメージで捉えることができる。 ○木の加工方法などを身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序など考えながら見通しをもって表すことができる。 ○鎌倉彫の歴史、制作方法を理解し、制作に活かすことができる。	○木の特性や美しさを基に、使う場面や使う人の気持ちなどから主題を生み出し、使い易さと美しさなどとの調和を考え表現する構想を練ることができる。 ○素材の特徴や美しさを基に、創造的な構成を工夫することができる。	○美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に構図や表現法などを意図に応じて創意工夫したり、創造的に表現したりする活動に取り組もうとしている。
評価材および評価方法				・提出作品・授業観察 ・定期考査 ・ワークシート	・提出作品・授業観察 ・定期考査 ・ワークシート	・提出作品・授業観察 ・ワークシート

令和8年度

2学年 保健体育科 年間指導計画・評価計画 担当 [近藤・服部]

教科の目標・	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	単元当初での診断的評価を基に、学習の重点項目を検討し、学び合いにより集団全員の学びの充実を図る。 単元半ばに技能テストを実施し、技能の習得状況をフィードバックした上で、集団技能や発展技能の習得を目指すことで、積み上げを可能とする。 写真や動画をPCで撮影し、模範との比較レポートやデータからの分析を行うことで理解を深める。

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
4 6	体づくり運動	○ICT機器で明示された目標、授業の流れを確認し、学ぶべき内容をイメージ化する。また、学習の効率化を図り、課題に取り組む時間をより多く確保する。	10	(知識) ※「技能」の評価基準は設定しない。 ・体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などについて理解している。 (運動) 手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。	・事故の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話し合いに参加しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
4 5	陸上競技 (短距離走、リレー)	○プレゼンテーションソフトや画像などを通して興味関心をもつ。また、課題の明確化や解決のための資料として活用する。	6	(知識) ※陸上競技共通 ・陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・滑らかな動きで速く走ることやバトンの受け渡しでタイミングを合わせることができる。	・動きなどの事故の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
4 5	ダンス (フォークダンス) (日本の民謡)	○フォトラグのイメージの実施を通して、感じ、読み解くなどの想像力を高め、多様な感じ方があることに気付く。	6	(知識) ・ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・民舞や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ることができる。	・表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
7 9	体育理論		3	(知識) ・運動やスポーツが多様であることについて理解している。 ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方を理解している。 ※「技能」に関わる評価対象がないことから設定しない。	・運動やスポーツの多様性について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組もうとしている。
7 9	器械運動 (跳び箱)	○学習ソフトを活用し、技の例示を通して学習する技の合理的な動き	8	(知識) ・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができる。	・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・器械運動に積極的に取り組むとともに、良い演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。

7 9	水泳 (クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ)	方のポイントを理解したり、自己の技能・体力の程度に適した課題を明らかにしたりする。	10	(知識) ・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを取り泳ぐことができる。 ・バタフライでは手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。	・泳法などの事故の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ったりしている。
9 10	球技(ネット型) (バレーボール)	○タブレット端末を活用した動画比較を通して、巧緻性を高めたり、問題を解決したりするための資料とする。また、協働による学習活動での活用を通して、仲間の学習を援助するなどの態度を身に付ける。	10	(知識) ・球技単元共通・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
9 10	球技(ゴール型) (ハンドボール)	○後追い再生機能付きAV機器の活用を通して、自己の演技を確認し、巧緻性を高めたり、課題を明確にしたりするための資料とする。	10	(技能) ・ボール操作と空間を使った動きによってゴール前での攻防ができる。	・動きなどの事故の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
11 12	陸上競技 (持久走)	※上記すべての内容を、各単元の学習内容に応じて、適宜活用する。	10	(技能) ・持続して走る力をつけることで体力を向上させる。	・動きなどの事故の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
12 1 2	陸上競技 (走り幅跳び) (走り高跳び)		6	(技能) ・リズムカルな助走から力強く踏み切り大きな動作で跳ぶことができる。		
12 1 2 3	武道 (柔道)		6	(知識) ・武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (技能) ・相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり押さえたりするなどの簡易な攻防をすることができる。	・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどしたり、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ったりしている。
2 3	球技 (ベースボール型) (ソフトボール)		10	(技能) ・基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。	・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
6	保健 (健康な生活と病気の予防)		7	・健康は主体と環境の相互作用のもとに成り立つこと、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わりあって発生すること、健康は運動や食生活、休養などの調和をとった生活を続けることが必要であることを理解している。	・課題を発見し、その解決に向けて試行し判断しているとともにそれらを表現している。	・健康な生活と疾病の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。
12 1 2 3	保健 (障害の防止)		11	・交通事故や自然災害などによる障害は人的要因や環境要因が関わることを理解している。 ・交通事故などによる障害の多くは安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。 ・自然災害による障害は災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全	・心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し、その解決に向けて習得した知識を活用している。また選択した解決方法を他者に伝えている。	・心身の機能の発達と心の健康について課題を発見し、その解決に向けた活動、及び学習を振り返る活動を積極的に取り組んでいる。

			に避難することによって防止できることを理解している。 ・応急手当を適切に行うことによって傷害の悪化を防止することができる ことを理解しているとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けている。		
	評価材および評価方法		・授業観察　・学習プリント　・定期考査　・実技テスト　・小テスト ・記録会　　・発表会　　　・体カテストの記録　・授業レポート	・授業観察　・学習プリントの内容 ・定期考査　・授業レポートの内容	・授業観察　・学習プリントの内容 ・授業レポートの内容　・定期考査

令和8年度 2学年 技術・家庭科（家庭分野） 年間指導計画・評価計画

担当 [瀧澤乃彩]

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。	・ICT 機器教材や配付資料等を通して、視覚的・体感的に学べる授業を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・作業が遅れがちな生徒には、個別に対応する時間を確保したり支援員と協力するなどして取り組ませる。	・家庭での実践、体験学習、調べ学習などを通して、学習の連続性をもたせる。 ・ICT 機器を活用して他者との意見や考えを共有し、様々な視点から生活の中にある家庭科について考察する。実習でも、他者との意見交換をしながら行えるようにする。	・体験的な活動を取り入れ、実生活につながる授業を構築する。 ・タブレット PC を積極的に活用し、視覚的・体感的に学べる授業を行う。 ・1時間ごとの目標を提示し、振り返りシートを活用して目標の達成具合を確認する。	・個々の生徒の学習状況・能力に応じた目標の設定及び評価の工夫を行っていく。 ・ワークシートや実習振り返りシートを活用し、生徒の学習状況の評価を適切に行う。

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との 関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	B 衣食住の生活 衣生活	タブレット	10	○衣服と生活との関わりについて理解している。 ○目的に応じた着用について理解している。 ○個性を生かす着用について理解している。 ○衣服の計画的な活用の必要性について理解している。 ○衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解していると共に、適切に活用できる。	○衣服の選択について問題を見い出して課題を設定している。 ○衣服の選択について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 ○日常着の手入れについて問題を見い出して課題を設定している。 ○日常着の手入れについて、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。	○衣服の選択について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ○より良い生活の実現に向けて、衣服の選択について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
5	1. 衣服のはたらきと手入れ	プロジェクター				
6	2. 衣服の選択と着方	実物投影機				
7	食生活 4. 日常食の調理		3	○材料に適した加熱調理の仕方について理解していると共に、基礎的な日常食の調理が適切にできる。	○食品の選択について問題を見い出して課題を設定している。	○食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
9	3. 布を用いた作品で生活を演出 製作の基礎・基本 (手縫い、ミシン縫い) 基礎縫いをもとに製作		13	○製作するものに適した材料や縫い方について理解していると共に、用具を安全に取り扱いながら製作することができる。	○生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。	○より良い生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた物の製作について、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
10						
11						
12						
1	C 消費生活・環境 1. 家庭生活と消費		6	○購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ○資源や環境に配慮した衣生活について理解している。	○消費生活について問題を見い出して課題を設定している。	○自立した消費者として、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。
2	2. 購入・支払いと生活情報					
3	3. 消費者被害と消費者の自立 4. 持続可能な社会		3	○地産地消を考え、材料に適した加熱調理の仕方について理解していると共に、基礎的な日常食の調理が適切にできる。	○持続可能な社会について問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。	○環境について考え、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
評価材および評価方法				定期考査・授業プリント・作品・実習	定期考査・授業プリント・作品・実習	振り返りシート・授業プリント・作品・実習

令和8年度

2学年 技術科 年間指導計画・評価計画（第1版）

担当 [西本 敬助]

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。	- ICT 機器教材や配付資料等を通して、視覚的・体感的に学べる授業を行い、基礎・基本の定着を図っていく。 - 作業が遅れがちな生徒には個別に対応する時間を確保し、取り組ませていく。	- 家庭での実践、体験学習、調べ学習などを通して、学習の連続性をもたせる。 - ICT 機器を活用して他者との意見や考えを共有し、様々な視点から生活の中の技術について考察する。	- タブレットを積極的に活用し、視覚的・体感的に学べる授業を行う。 - 目標を提示し、終末に振り返りシートを活用して目標の達成具合を確認する。	- 個々の生徒の学習状況・能力に応じた目標の設定及び評価の工夫を行っていく。 - ワークシートや実習振り返りシートを活用し、生徒の学習状況の評価を適切に行う。

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	エネルギー変換の技術	・モニター、 タブレット	28	- 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、エネルギー変換の技術の概念を理解している。 - 自然界のエネルギーの種類や利用方法、エネルギー損失について理解している。 - 国や地域によって発電事情が異なり、それに応じた発電方法が行われていることを理解している。 - 電気エネルギーの発生する仕組みや電源の種類、特徴について理解している。 - 電気エネルギーを変換する電気回路の仕組みについて理解している。 - 電気回路の製作にともなう基本的な内容が理解している。 - 発電の仕組みについて理解し、それぞれの違いを説明する技能を身に付けている。 - 電気による事故が起きないように許容電流などを考えて電気機器を安全に使用する技能を身に付けている。 - けがき、切断・切削、組み立てにおいて、用途に応じて工具を適正に選択し、使用する技能を身に付けている。 - はんだごてを使用し、電気回路の配線をする技能を身に付けている。 - 工具や機器を適切に使用し、製作品の組み立て及び保守・点検を行う技能を身に付けている。	- 身の回りにある機器が社会の変化によって工夫されていることを読み取り、技術の見方、考え方に気づくことができる。 - 社会や生活の中からエネルギー変換の技術と安心、安全に関わる問題を見出して、必要な課題を設定できる。 - 製品の構造や電気回路などを、使用場面などの制約条件を踏まえて構想し、設計や計画を具体化できる。 - 設計に基づいて電子部品や工具を選択し、能率的な作業方法を適切に選択できる。 - 完成した製作品が設定した課題を解決できるかを評価するとともに、設計や製作の過程に対する改善及び修正を考えている。	- 身の回りのエネルギーに関心をもち、エネルギーの各種変換方法やその特徴及び利用について調べようとしている。 - 日常生活において、電気機器の保守・点検や、環境に配慮した製品について学んだことを活かして検討しようとしている。 - 身の回りにある機器についてどのような保守・点検ができるのかを調べようとしている。 - 正しく安全に工具を使用している。 - 製作品の製作に主体的に取り組もうとしている。 - 安全な生活や社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
5	1 エネルギーの変換と利用					
6	2 機器の仕組みと保守点検					
7	(1) 機器に使われている部品					
夏休	(2) 電気を使う仕組み					
	(3) 電気を安全に使う方法					
9	3 実習					
10	エネルギー変換を利用した製作実習					
11	(1) 設計					
12	(2) はんだ付け					
	(3) けがき					
	(4) 切断・切削					
	(5) 組み立て					
	(6) 部品の検査と修正					

1D 情報の技術	・モニター、 タブレット	7	○コンピュータの利用されている形態や利用方法について理解している。 ○コンピュータの基本的な構成と働きや操作に関することを理解できる。 ○ソフトウェアの機能を理解している。 ○ソフトウェアの機能を理解し、活用する技能を身に付けている。 ○コンピュータの基本的な操作ができる。 ○基本、応用ソフトウェアの機能に関する知識を身に付け、説明することができる。	○情報社会の変化とともに、コンピュータやネットワークがもつ働きについて評価し、これらの課題について考えている。 ○目的や条件に応じて適切な応用ソフトウェアを選択できる。 ○応用ソフトウェアを利用して情報の処理の仕方を工夫できる。 ○応用ソフトウェアの機能を利用して、作品に工夫した内容を表現できる。	○生活や産業の中で情報の果たしている役割について関心をもっている。 ○コンピュータやネットワークの仕組みに関心を持ち、適正に活用しようとしている。 ○安全な生活や社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。 ○生活や産業に使用されているコンピュータの働きや課題について自ら考え、調べようとしている。 ○コンピュータの構成を理解しようとしている。
2 1 コンピュータの仕組みと基本操作					
3 (1) コンピュータの構成 (2) コンピュータの使い方 (3) 情報通信ネットワークの利用					
評価材および評価方法			・定期考査 ・ワークシート ・作品	・定期考査 ・ワークシート ・作品	・課題への取り組み ・ワークシート ・作品

令和8年度

2学年 英語科 年間指導計画・評価計画

担当 [星野・木内・豊野]

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解すると共に、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	①授業内で小テストを実施し、家庭での学習課題を出すことで、復習の定着を図る。 ②ICT 機器や補助教材を効果的に活用し、単語や熟語、文法の定着を図る。 ③長期休業明けのプリント学習や確認テスト等で、単語や文法の定着を図る。	①知識・技能を活用し、場面や状況に応じて使う表現を選択し自己でできる力を育成する。 ②授業の内外で教室英語を日常化し、英語に慣れ親しませる。 ③外国語を使って、互いの考えや気持ちを伝えあうなどの言語活動を通して、生徒が主体的に考え、仲間と対話しながら、考えを深めていく。	①評価の観点を事前に明確に示し、生徒が意欲や目標をもって課題に取り組むようにする。 ②ALT との授業の中で生きた英語を身に付けさせるために様々な表現活動を行う。 ③小テストやプリントからその評価や学習を経て生徒が自らの学習過程を振り返り、目標や課題をもって学習していけるように指導する。 ④ふりかえりシートを用いることで、生徒が自らの学習過程を振り返り、目標や課題をもって学習していけるように指導する。	①パフォーマンステストや定期考査において、振り返りの機会を設定し、個に応じたフィードバックを心がける。 ②生徒の学習に対する粘り強さや調整力を単元ごとに的確にフィードバックを行うことで、次の課題に進めるようにする。

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

(L) = 聞く、(R) = 読む、(SI) = 話す（やり取り）、(SP) = 話す（発表）、(W) = 書く

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	Unit 1 Hajin's Diary	ま体ツ等年 せのトを間 でを活を 。対効用通 話果すじ 的的るて な。デ 学活生ジ 習用徒タ にさ用ル 取せタ教 り、ブ科 組主レ書	11	・動詞の過去形、接続詞 when、look (sound)+形容詞を使った構文を正確に理解している。(L/R/SI/W)	・登場人物のある日の出来事を知るために、その人物の日記から出来事や感想を読み取り、分かりやすく日記を書いている(R/W)	・登場人物のある日の出来事を知るために、その人物の日記から出来事や感想を読み取り、日記を書こうとしている。(R/W)
	Daily Life 1 電話		1	・Can you ~?や電話特有の表現について正確に理解し、何かを頼んだり応じたりするやり取りをすることができる。(SI)		
5	Unit 2 Basketball Tournament		11	・動名詞、不定詞の名詞的用法、I think (that) ~.について正確に理解している。(L/R/SI/W)	・インタビューからその生徒の好きなことやしたいことなどの必要な情報を聞き取り、概要、要点を捉えている。(L) ・クラスの友達と互いに分かり合うために、好きなことやしたいことなどについて、その場で適切にたずね合っている。(SI)	・インタビューからその生徒の好きなことやしたいことなどの情報を聞き取ろうとしている。(L) ・好きなことやしたいことなどについて、その場でたずね合おうとしている。(SI)

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6	Active Grammar 1	年間を通じてデジタル教科書等を活用する。生徒用タブレットを効果的に活用させ、主体的で対話的な学習に取り組ませる。	1	・動名詞や不定詞の名詞的用法の使用場面、意味、文の形を正確に理解している。(R/W)		
	Unit 3 Plans for the Summer		11	・be going to、助動詞 will、接続詞 if の構文について正確に理解している。(L/R/SI/W)	・メールからその人物の予定や希望などの必要な情報を読み取り、適切な形式や表現を用い、気持ちが伝わる一言を付け加えるなどの工夫をしてメールを書いている。(R/W)	・メールからその人物の予定や希望などの情報を読み取り、適切な形式や表現を考えたり、一言付け加えるなどの工夫をしたりして、メールを書こうとしている。(R/W)
	Daily Life 2 アナウンス		1	・数字や時刻、天気、気温の言い方、助動詞 will などの意味や働きを理解している。(L)	・便の変更を知らせるアナウンスから、必要な情報を聞き取っている。	
7	Active Grammar 2		1	・be going to や will の使用場面、意味、文の形を正確に理解している。(R/W)		
	Let's Read 1 The Cookies		3	・物語から、いつどのような出来事が起こったかを読み取ることができる。(R)	・物語のあらすじを理解するために、時を表す語句や人物の行動に注意して読み、出来事の経過を捉えている。(R)	・読んだ内容をもとに登場人物の心情について考えたり、人物の心情が表れている文を見つけたりしようとしている。(R)
	Daily Life 3 レストラン		1	・Shall I ~?、Would you like ~? や Will you ~? という言い方を理解し、飲食店で注文したり何かを依頼したりする h 技能を身に付けている。(L/SI)	外国のレストランで朝食を食べるために、メニューをもとに注文のやり取りをしている。	シンガポールのレストランで朝食を食べるために、メニューを基に注文のやり取りをしようとしている。
	You Can Do It! 1 わが町観光プランをすすめよう		2	・交換留学生の自己紹介文から、趣味や好きなこと、したいことなどの内容を読み取ることができる。(R) ・予定や未来のこと、自分たちの考えなどを話すことができる。(SP)	・2人の交換留学生の興味・関心があることを知るために、自己紹介文から必要な情報を読み取り、2人が一緒に楽しむことができる観光プランを、見どころとそこを勧める理由などを整理して発表している。(R/SP)	・2人の交換留学生の自己紹介文から、必要な情報を読み取り、興味・関心にもとづき、伝える内容の整理のしかたを考えて発表しようとしている。(R/SP)
	World Tour 1 世界のいろいろな英語を知ろう		1	・インタビュー動画の内容を聞きとることができる。(L)	・インタビュー動画を見て、気が付いたことをその場で伝え合っている。(L)	・インタビュー動画を見て、大まかな内容をとらえようとしている。動画を見て気が付いたことをその場で伝え合おうとしている。(L)
9	Unit 4 Tour in Singapore		11	・There is ~. や <S+V+O+0>, 不定詞の形容詞的用法について正確に理解している。(L/R/SI/SP/W)	・シンガポールの見どころや昼食をとる場所を知るために、ガイドブックから施設やできることなどの必要な情報を読み取り、発表しようとしている。(R/SP)	・施設やできることなどの情報を読み取り、先生の興味・関心に合うように、情報の整理の仕方を考えて、まとまりのある観光プランを発表しようとしている。(R/SP)
	Daily Life 4 道案内		1	・Could you ~? や how で始まる疑問文を正確に理解し、行き方をたずねたり教えたりする道案内のやり取りをすることができる。(SI)		
	Active Grammar 3		1	・<S+V+O>と<S+V+O+0>の文の形を正確に理解している。(R/W)		

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10	Unit 5 How Do We Star Safe	年間を通じてデジタル教科書等を活用する。生徒用タブレットを効果的に活用させ、主体的で対話的な学習に取り組ませる。	11	・ have to ～や助動詞 must, should を使った言い方について正確に理解している。(L/R/SI/W)	・ 防災バッグに入れる品物の説明から必要な情報を聞き取り、自分の考えやその理由などを伝えながらグループで話している。(L/SI)	・ 品物の説明から必要な情報を聞き取り、自分の考えやその理由、友達の考えを聞いて思ったことなどを伝えようとしている。(L/SI)
	Daily Life 5 電車の乗り換え		1	・ May I ～? Could you tell me the way to ～? など道案内特有の表現の意味や働きを理解している。(R) ・ 電車の乗り換えについてたずねたり、案内をしたりする技能を身に付けている。(R)		
	Daily Life 6 体調不良		1	・ You look ～, や症状を言うときの表現、助動詞 should などの表現を理解し、体調をたずねたり助言をしたりする技能を身に付けている。(SI)		
11	Active Grammar 4		1	・ 既習の助動詞の使用場面、意味、文の形を正確に理解している。(L/R/W)		
	Unit 6 Guide Dog		11	・ 不定詞の副詞的用法や接続詞 because の構文について正確に理解している。(L/R/SI/W)	・ ボランティア活動についての内容を読み取ったり、紹介したいボランティア活動についての記事を書いている。(R/W)	・ 記事から大まかな内容を読み取り、内容を捉えようとしている。紹介したいボランティア活動についての記事を書こうとしている。(R/W)
	Active Grammar 5		1	・ 不定詞の形容詞的用法と副詞的用法の使用場面、意味、文の形を正確に理解している。		
	Active Grammar 6		1	・ 既習の接続詞の使用場面、意味、文の形を正確に理解している。		
12	Let's Read 2 Meet Hanyu Yuzuru		3	・ 接続詞 when, because, that や不定詞などの用法について正確に理解している。(R) ・ インタビュー記事を読んで内容を理解したり、音読したりすることができる。(R)	・ 羽生選手の経歴や思いを知るために、インタビュー記事の概要を捉えている。(R)	・ インタビュー記事の概要を捉え、羽生選手のメッセージに対する感想や質問したいことを、読んだ内容を基に考えようとしている。(R)
	World Tour 2 世界で活躍する人について知ろう		1	・ 説明文から、人物の行動や考え、いつの出来事か、因果関係などを読み取ることができる。(R)	・ 写真の順序に合う文章にするために、説明文からおおまかな内容を読み取り、文章の流れを捉えている。(R)	・ 説明文から大まかな内容を読み取ろうとしている。(R)
	You Can Do It! 2 誰もが楽しめるイベントを提案しよう		2	・ 町のイベントについての会話の内容を聞き取ったり、提案内容を発表したりする技能を身に付けている。(R/SI)	・ 自分の意見や考えを整理して、イベントを提案している。(R/SI)	・ 自分の意見や考えを整理して「誰一人取り残さないイベント」を実現する提案をしようとしている。(SI)

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	Unit 7 Working Together	年間を通じてデジタル教科書等を活用する。生徒用タブレットを効果的に活用させ、主体的で対話的な学習に取り組ませる。	11	・形容詞の比較級、最上級, as ～ as の構文について正確に理解している。(L/R/SI/W)	・オーストラリアの名所とその特色を知るために、観光紹介の記事から必要な情報を読み取り、概要、要点を捉えている。(R) ・自分の町の名所や名物などを紹介するために、紹介するものの特徴が伝わる、まとまりのある文章を書いている。(W)	・観光紹介の記事から必要な情報を読み取るうとしている。(R) ・読んだ記事などを参考にして、紹介するものの特徴が伝わる文章を書こうとしている。(W)
	Daily Life 7 オンラインツアー		1	・形容詞の最上級、同等比較、接続詞 if, There is ～. の構文などについて正確に理解している。(L/R) ・観光地の音声案内から、観光地にあるものやその特徴などの情報を聞き取ったり、読み取ったりすることができる。(L/R)		
	Active Grammar 7		1	・形容詞や副詞の比較級、最上級、同等比較の使用場面等を正確に理解している。(R/W)		
2	Unit 8 Performing a Play		11	・受け身、<S+V+O+C>、<want+人+不定詞>の構文について正確に理解している。(L/R/SI/SP/W)	・学級新聞の記事から作品紹介の大まかな内容を読み取っている。(R) ・友達に自分のお気に入りの作品の良さが伝わるように、作者や大まかな内容などの構成を考え発表することができる。(SP)	・学級新聞の記事から作品紹介の大まかな内容を読み取ろうとしている。(R) ・友達に作品の良さが伝わるように、記事を参考に構成を考えて発表しようとしている。(SP)
	Active Grammar 8		1	・受け身の文の使用場面、意味、文の形を正確に理解している。(R/W)		
	Daily Life 8 音声ガイド		1	・音声ガイドから、作者や描かれているものについての説明を聞き取ることができる。(L)		
	Let's Read 3 Emojis From Japan to the World		4	・説明文から、絵文字が世界に広まった経緯や使い方の違い、筆者の意見などを読み取ることができる。(R)	・身近なコミュニケーションツールである絵文字について考えを深めるために、文章構成を理解し、段落の要点を読み取りながら、説明文の概要を捉えている。(R)	・文章構成や段落の要点を考えながら読み、説明文の概要を捉え、本文の内容で共感できるところや異なる考えをもったところについて、読んだ内容をもとに考えている。(R)
3	World Tour 3 世界のワンダーについて知ろう		1	・既習の表現や語句の意味の働きの理解をもとに、世界のワンダーについての説明を聞き取ることができる。(L)	・世界のワンダーについて知るために、紹介する動画を見て、概要、要点を捉えている。(L)	・世界のワンダーについて知るために、その特徴などを紹介する動画を見て大まかな内容を捉えようとしている。(L)
	You Can Do It! 3 かるたで地域のPRをしよう		1	・インタビューから、旅行者が話題にしているものの特徴や用途などの内容を聞き取り、紹介するものの特徴や、どんなときに使われるかなどを話すことができる。(SP)	・旅行者がおもしろいと思ったものは何かを知るために、インタビューから必要な情報を聞き取り、紹介するものの特徴や用途、面白いと思うポイントを整理してクイズを出している。(L/SP)	・インタビューから、旅行者が面白いと思ったものを聞き取り、紹介するものの特徴や用途、面白いと思うポイントを考えてクイズを出そうとしている。(L/SP)

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3	Let ' s Read More 1 Plastic Food Samples		1	・ There is の構文、不定詞、接続詞 if などの用法について正確に理解している。(R) ・ 食品サンプルについての記事を読み、概要についての英問英答に答えられる。(R)	・ 食品サンプルがどこで生まれ、どのように作られているかなどを、記事を読み大まかな内容を捉えている。(R)	・ 記事を読み、大まかな内容を捉えようとしている。(R)
	Let ' s Read More 2 Aboriginal Art		1	・ 紹介文から、アボリジナル・アートが生まれた背景やその特徴などを読み取ることができる。(R)	・ アボリジナル・アートの歴史や特徴について紹介文の概要を捉えている。(R)	・ 紹介文の概要を捉え、新しく知ったことや感じたことを考えようとしている。(R)
	Unit 1～8 Story Retelling		8	・ 教科書本文の内容に関する教師の発話を聞いて、進出英文法を用いながら、自分の言葉で伝えることができる。(L/SP)	・ 教科書の本文の内容を、自分の言葉で聞き手に伝わるように話している。(SP) ・ 教科書の本文の内容を、自分の言葉で聞き手に伝わるように書いている。(W)	・ 他者が話している様々な表現を聞いて、次の自分の活動に活かそうとしている。(L/SP) ・ 他者が書いた英文を読んで、自分の英作文に活かそうとしている。(W)
評価材および評価方法				○定期テスト ○小テスト、スペリングコンテスト ○英作文 ○質問に対する応答 ○発表（リテリングテスト、スピーチ、スピーキングテスト等）の正確さと発表原稿	○定期テスト ○論述やレポートの作成・発表 ○英語表現（プリント） ○グループワーク ○作品の制作・表現 ○発表（リテリングテスト、スピーチ、スピーキングテスト等）の表現力	○提出物 ○振り返りシート ○発表（リテリングテスト、スピーチ、スピーキングテスト等）の態度 ○授業に取り組む意欲・態度